

米国における 学生の学習成果アセスメント活動及び IR面からの支援のあり方について

大学評価コンソーシアム勉強会
(2015年3月9日 立命館大学朱雀キャンパス)

藤枝エリ (社会学博士/ウィノナ州立大学計画・評価・調査室長)

メール宛先 : efujieda@winona.edu



講師略歴

学歴

B.A.	津田塾大学（国際関係学科）
M.A.	オレゴン大学（国際学科）
Ph.D.	イリノイ大学（社会学）

職歴

- サラ・ローレンス大学およびウィスコンシン大学スペリオール校にて社会学助教授・準教授として計12年間勤務。
- 2013年7月よりウィノナ州立大学にて現職。
- 2013年より米国中南西部の地域適格認定協会である Higher Learning CommissionのPeer reviewerとして活動。
- 2014年よりAssociation for Institutional Research Upper Midwestの執行委員会に参加。

ウィノナ州立大学 (Winona State University)



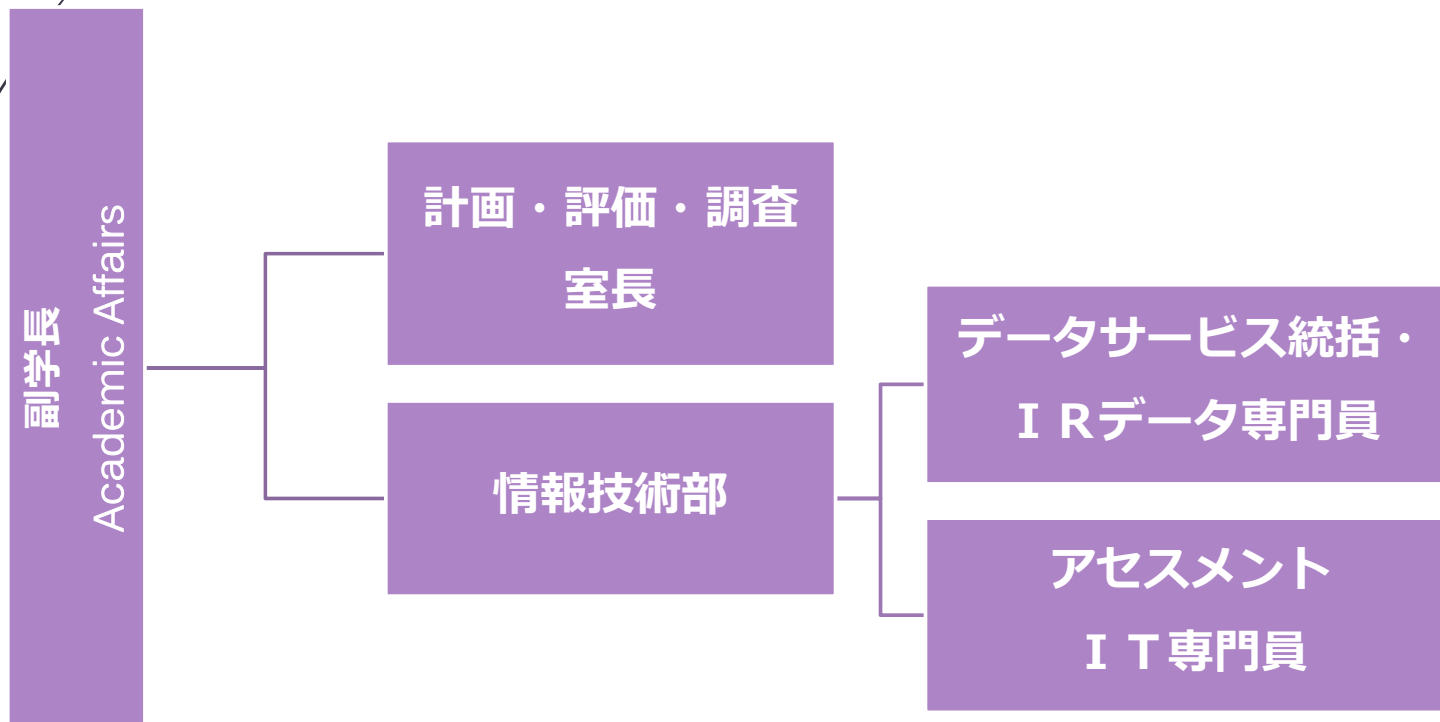
全学生数(2014年9月現在) : 8,701名

- **学部生8,127名 大学院生574名**
- **新入生1646名 転入生636名**
- **人文学部・教育学部・理工学部・看護保健学部・経営学部**

大学計画・評価・調査室

Office of Institutional Planning, Assessment & Research (IPAR)

- 2009年にアセスメント室とIR室を統合
- 各学部・部署、また大学行政全体のニーズに合わせたデータ関連の支援をするのが主目的
- IT専門員は、一般IR業務やデータ検索・分析、またアセスメントソフトウェア利用者への技術面支援も担当・補佐



ウィノナ州立大学における 学習成果アセスメント

学生調査

学習態度と
意欲

学習環境
満足度

学習成果の
自己評価

全国標準 テスト

問題分析・
解決能力

数値的思考力

読み書きの
能力

専攻分野での
学習成果

授業科目・ 専攻分野 アセスメント

一般教養での
学習成果

専攻科目・
分野に適した
学習成果

非正規 学習活動 アセスメント

国際経験

地域活動参加

校内
アルバイト
経験

卒業生調査

就職・
進学先の
調査

雇用者
調査

WSU 学習成果アセスメント実践者

Improvement, Accreditation & Assessment Committee (ImpAACT)

- 参加者：教授・スタッフ・教学役職者
- 目的：機関別適格認定の自己点検・評価及び大学全体の学習成果アセスメントの促進

アセスメント実践者

- カリキュラム委員会
 - 一般教養班
- 各学部・学科の教授陣
- 学習支援課スタッフ
- 学生生活課スタッフ

Office of Institutional Planning, Assessment & Research

- 学習成果の明確化やその測定方法の決定に貢献
- アセスメントデータ収集システムの設定・管理
 - 全国・校内学生調査の実施
 - アセスメントデータ収集・管理ソフトウェアの設定・管理・利用促進
- アセスメントデータの処理・分析・報告

測定可能な学習目的の設定・明確化のプロセス (WSUの場合)

	設定者	決定要因
学生レベル	各学生が指導教官と相談の上 設定	学生個人の教育目的及び大 学の一般・専攻別学習目的
学科レベル	各学科教員	各学部の学習目的；大学一 般の学習目的も考慮
学部レベル	各学部教員	分野別アクレディテーション による基準または各学部 教授陣が合意した基準；大 学一般の学習目的も考慮
大学レベル	ImpAACtが教授・スタッフ代 表及び教学役職者と協議後設 定	各自大学の理念・目的；地 域組織別アクレディテー ションの基準や全国的に受 け入れられている標準も考 慮
州立大学組織 レベル	各州立大学からの代表及び州 立大学組織教学部スタッフに よる協議	州立大学組織の理念・目的

WSUにおける学習成果アセスメントデータ収集法

	アセスメント法	適応する 学習目的	測定責任者
直接 評価	全国標準テスト (一般または分野別) 例：CAAP, ETS	<ul style="list-style-type: none"> • 大学全般の学習目的 • 一般教養学習目的 • 各学部での学習目的 	<ul style="list-style-type: none"> • IPAR • 各学部
	授業科目にてのテストやレポート		<ul style="list-style-type: none"> • 各学部 • 各学科教員
	正規学科外での教育活動に基づく学習成果の評価		<ul style="list-style-type: none"> • IPAR • 各学部 • 学習支援課 • 学習生活課
間接 評価	学生の学位終了率		IPAR
	学生の成績 (全般・教科レベル)		<ul style="list-style-type: none"> • IPAR • 各学部・学科
	学生調査 (全国・校内)		<ul style="list-style-type: none"> • IPAR • 学習支援課 • 学生生活課 • 各学部・学科
	卒業生調査	<ul style="list-style-type: none"> • キャリアサービス 	

学習成果アセスメントにおけるIPARの役割

データ処理支援

- 学生調査用ソフトウェアアプリケーションの設定・利用促進
- アセスメント結果の収集・要約用のソフトウェアアプリケーションの設定・参加促進

データ収集・分析

- 全国標準テスト(一般)の計画・実施・データ分析及び報告
- 全国または大学独自の学生調査の計画・実施・データ分析及び報告

大学意思決定・戦略的計画への貢献

- 全学レベルでのアセスメント結果の要約・報告
- 学部・学科・学習支援課・学生生活課にての学習成果アセスメント計画・実施の際の相談役
- 全学レベルで実践されているアセスメントと地域機関別アクレディテーションの基準の間の整合性チェック

学習成果アセスメントを組織的な改善につなげるには... ?

- Accountabilityと組織的な改善を同時に満たせるようなアセスメントを可能にすることが重要である。近年の地域別あるいは専門別アクレディテーションも、組織的な改善の実践に向けた学習成果アセスメントを強調している。

Kuh, G. D., Ikenberry, S. O., Jankowski, N.A., Cain, T.R., Ewell, P.T., Hutchings., P., & Kinzie, J. (2015). *Using Evidence of Student Learning to Improve Higher Education*. Jossey-Bass.

- 全国標準テストの結果を組織的改善の役に立てるためには、各大学の平均点数を比較するだけでなく、個々の大学の学生の特徴や実践との関連分析・解釈が必要である。

Benjamin, R., Miller, M. A., Rhodes, T. L., Banta, T. W., Pike, G. R., & Davies, G. (2012, September). *The Seven Red Herrings About Standardized Assessments in Higher Education*(NILOA Occasional Paper No.15). Urbana, IL: University of Illinois and Indiana University, National Institute for Learning

- 学生及び教員にとって意義のあるアセスメントが組織的改善に繋がる。そのためには、学生の学習成果を大学経営の中核とし、大学政策や規則に取り入れていくことが必要である。

Hersh, R.H. & Keeling, R.P. (2013, February). *Changing Institutional Culture to Promote Assessment of Higher Learning*. (Occasional Paper No.17). Urbana, IL: University of Illinois and Indiana University, National Institute for Learning Outcomes Assessment.

課題（1）

学習成果アセスメントを組織的改善につなげるためには I R室は何にフォーカスすべきか？

	目的・対象	
I R室の 組織内での役割・機能	Formative/Internal - for Improvement	Summative/External - - for Accountability
組織の一員として 行政/管理に フォーカス	大学組織に関する情報の担い手	大学が最上に見えるようなデータの提供者
専門家的として 知識追求に フォーカス	新方針の提言を目的とする政策分析者	客観的に、大学実践の効果について演繹的実証を提供する研究者

Volkwein(1999)より

課題 (2)

学習成果アセスメントを組織的改善につなげるために 必要な I R 室業務とは？

アセスメントの 戦略的計画支援

- ・アセスメントの目的をProgram Review, Student Success, Institutional Effectiveness, accreditationsと関連・設定する過程促進。
- ・目的に適合するアセスメント計画づくりを支援。

データ収集・ 分析・報告

- ・学位終了パターン、G P A, 全国標準テスト結果、学生調査結果などをProgram Review, Student Success, Institutional Effectivenessとの関連で分析・解釈・報告。

I T 技術的支援

- ・アセスメントデータ収集・管理・分析システムの簡略化・自動化を促進。

課題 (3)

学習成果アセスメントを組織的改善につなげるためには
どのような知識・技能が I R 室スタッフに必要なか？

